

（株）藤里開発公社の令和3年度上半期経営状況について

令和3年度の上半期の売上高は、加工手数料や指定管理料を含んだ総額では117,574千円で令和2年度の95,859千円に対し22.7%、21,715千円の増となりました。

売上原価では24,354千円と前期比17.6%、3,641千円の増、販売・一般管理費においては102,107千円で前期比6.6%、6,295千円の増となっておりますが、各部門とも売上げ増に伴うもので必要最小限に留めた結果によるものであります。

営業利益では8,887千円の赤字となりましたが、前期との比較では11,779千円の改善となりました。町補助金と指定管理料を含んだ経常利益では4,286千円の黒字決算となり、前期比で3,121千円の減となりましたが、前期は営業外収益として白神山水施設のメンテナンスに係る補助金や新型コロナ関係の助成金など30,052千円の計上に対し、今期は15,071千円と14,981千円の減によるものであります。

下半期においては、依然として新型コロナ感染の影響による自粛生活に伴い、消費の回復の遅れが予想されますが、引き続き経費の節減と営業努力により、営業損益の赤字圧縮と令和5年度の黒字化（指定管理料を含む）に向けて売上げの回復に努めてまいります。

令和3年度上半期決算状況

（単位：千円）

科 目	R 3 実績	R 2 実績	比 較
売 上 高	91,897	70,331	21,566
加 工 手 数 料	5,107	6,183	△1,076
指 定 管 理 料	20,570	19,345	1,225
総 売 上 高	117,574	95,859	21,715
売 上 原 価	24,354	20,713	3,641
売 上 総 利 益	93,220	75,146	18,074
販 売 費 ・ 一 般 管 理 費	102,107	95,812	6,295
営 業 損 益	△8,887	△20,666	11,779
営 業 外 収 益	15,071	30,052	△14,981
営 業 外 費 用	1,898	1,979	△81
上 半 期 純 損 益	4,286	7,407	△3,121

主な事業、実績概要につきましては、以下のとおりです。

●ホテル部門

新型コロナウイルス感染症の影響が4月以降も続きましたが、7月に入りようやく低迷からの脱出が見え、コロナ前の元年度の売上げに対しては未だ回復までには至っておりませんが、前期末に改装したワーケーションルームの評判も上々で、利用率も徐々に上向いてきている状況であります。

下半期は、引き続き忘・新年会などの団体利用は自粛傾向が続くと予想され、受注は厳しいと受け止めていますが、各種宿泊キャンペーンを効果的に宣伝し、宴会のマイナス分をカバーし、さらには年末年始の仕出し料理、宿泊プラン、日帰りプランなどの冬季販売商品のPRを実施し集客を図ってまいります。

●健康保養館

利用者数においては、令和元年度実績までには回復しておりませんが、ホテル利用者の増加に関連し前期対比では増となっております。一般の日帰り利用は地域利用者の高齢化や少子化の影響により徐々に減少している状況にあります。

下半期においては、冬場の灯油の使用量の増加や燃料費の高騰などが懸念されるため、厳しい営業が続くと考えられますが、従業員一丸となって経営改善に努めてまいります。

●加工センター

指定管理料を除く売上高は、前期比で減収となりました。これは、新型コロナの影響で道の駅での消費が伸びなかったことが要因であります。こうした中でジュース・アイスの売上げは一定額を確保しました。

「白神ラム」につきましては、既存の取引先に加え、新規開拓に努め、多方面からの問い合わせをいただいております。今後は営業の強化を図り、ブランド確立に向け、より一層の努力をしております。

また下半期は、きりたんぼ関係の需要期に入り、売上げ増が期待できることから、野菜価格の高騰が見られるものの、出来るだけ原材料費など経費を節減し、収益確保に努めてまいります。

●水生産販売部門

全体的に新型コロナの影響による外出自粛や店舗の時短営業等により、消費の落ち込みの回復が進んでいない状況です。

下半期は、小売り強化による収益の確保を優先課題として、新規取引先の開拓と並行して経費の削減と資材ロスの管理を徹底し、売上げ増進を目指し努力してまいります。